

平成27年

目黒区教育委員会

第27回定例会会議録

(平成27年7月21日開催)

第27回目黒区教育委員会定例会会議録

開催年月日 平成27年7月21日

開催場所 教育委員会室

出席委員	教育委員会委員長	木村 肇
	教育委員会委員長職務代理者	小村 恵子
	教育委員会委員	笹尾 敦夫
	教育委員会委員	中山 ひとみ
	教育委員会教育長	尾崎 富雄

出席職員	教育次長	関根 義孝
	教育政策課長（学校統合推進課長兼務）	
		山野井 司
	学校運営課長	佐藤 欣哉
	学校施設計画課長	照井 美奈子
	教育指導課長	佐伯 英徳
	めぐろ学校サポートセンター長	増田 武
	統括指導主事	細田 真司
	統括指導主事	和田 孝
	生涯学習課長	金元 伸太郎
	八雲中央図書館長	大迫 忠義

書記		鈴木 敏由起
		山東 隆博

(午前9時30分開会)

○委員長 おはようございます。第27回目黒区教育委員会定例会を開会します。本日の欠席職員は教職員・教育活動課長です。署名委員は中山委員です。

ただいま、傍聴の申請がございましたのでお諮りいたします。傍聴を許可したいと思いますますが、よろしいでしょうか。

(各委員同意)

○委員長 それでは、傍聴を許可することといたします。
なお、以後の傍聴の申請はその都度許可することとし、委員の皆様にはお伝えすることはいたしません。

それでは日程第1を議題とします。

(日程第1 平成28年度使用目黒区立中学校教科用図書の採択について
(協議事項))

○説明員 (資料により説明)

○委員長 ありがとうございます。

ただいま説明にありましたように、本日は理科、音楽、美術の協議をしたいと思います。

手順としまして、各委員の皆様は数社に絞っていただき、8月4日の本委員会で上位数社を検討して、1社に絞るという手順でいきたいと思います。

それでは、皆さんのお手元にあります学校調査報告書と、調査研究委員会報告書を事前に読んできていただいていると思います。その結果を踏まえまして、一人一人の委員にお考えを伺いたいと思います。

なお、進行の都合上、会社は実社名ではなく呼称欄の記号で話を進めていきたいと思います。

それでは、理科から協議します。

○委員 私は3社を選びました。A社、B社、F社の3社です。

まず、A社ですが、身近な生物の観察として鳥や木の写真がありまして、観察と成果が直結するような、そういう流れになっているように感じました。生物というところで、例えば植物だけと

か、生物の鳥だけという「分け方をせずに、それを一緒に写真で表現している」というところが、かなり工夫されているなという印象を受けました。

それから「不思議大陸」のように、生徒に興味を持たせるような、考えさせる工夫のもので、生徒の興味がわくような構成になっていると思います。

特に項目でいきますと、葉のつくりのところに、「レッツ・トライ」という、コラムのような形で出ておまして、これは生徒が自主的に学ぶ工夫という形で取り上げられているように思いました。

それから、特に理科系の場合、推測という行動がかなり大きな構成要因になるとおまして、この「推測しよう」というところの文章が簡潔で、写真と文字のバランスがいいという印象を受けました。

それから、やはり小学校からの苦手意識を払拭する意味でも、振り返りということで、単元の冒頭にあるところも非常にわかりやすいという印象を受けました。

B社も同じように、A社と遜色はないとは思ったのですが、特に印象を受けたのが、春に見られる植物という見開きのものがありまして、他の教科書と違うのは、どこで見つけるかが説明されています。要は、生徒の身近なところで見つける場所までが書き込まれていたというので印象がよかったです。

あと、観察・記録の仕方、これも内容が整理されてわかりやすい。「結果からわかること」という見出しがありますけれども、いわゆる考察というものが本文中に書かれています。これは理科教育の一つの基本ではないかと思いますが、本人にその問題の最後まで完結させるという、その生徒の判断で曖昧なままで残さない、そういう姿勢が教科書の中に盛り込まれているというのもよい印象を受けました。

F社は、これも私にはかなり頑張っておられるなという印象を受けました。

語句の定義や観察・実験のまとめなどが丁寧でわかりやすいということでもあります。それから、視点を変えるとか継続して観察すると、特に観察という行動のポイントがわかりやすく説明されているというのがよい印象を受けました。

ただ、章立てに、水や栄養分を運ぶ仕組み、栄養分をつくる仕

組みという表現になっております。他社のものでは、葉、茎、根と、そういう目に見えるものの表現で章立てしており、F社だけが、「水や栄養分を運ぶ仕組み」と表現されていると。これが果たして、理科が苦手な生徒たちにどういう印象を与えるかというところが気になりました。私は、どちらかという目に見えるもの、葉、茎、根という形で章立てしたほうが印象がいいのではないかと印象を受けました。

以上です。

○委員 私はB社とF社を選びました。B社は、やはり最初の導入のところが植物のところから入っていて、とても写真がきれいでレイアウト等も見やすいと思いました。その中で、例えば牧野富太郎博士という日本の科学者の説明などもあって、中学に入ってストレートに入っていけると感じました。

それから、F社は非常にバランスがとれていて、使いやすい配慮がされていると思います。あと、別冊というのは学習の進んだ子などにも受け入れやすいでしょうし、段階に応じて工夫をしながら使えるというところがあると思いました。

推薦するのはB社とF社ですけれども、C社は惑星の取扱いがすごくよくて、今話題になっている惑星がとてもきれいだったのですが、やはり第一分野と第二分野というところで、第二分野のほうがわかりやすいという報告書での意見が多いものですから、あえて推薦はいたしませんでした。

以上です。

○委員 まず、理科に関しましては、平成26年度の日黒区学力調査をもとに、学力調査と意識調査のクロス集計の結果を参考にいたしました。といいますのも、中学校1年生の段階で理科の勉強が好きという生徒が、評定の高い低いにかかわらず、むしろ低い生徒が一番好きという回答が多かったということから、理科が好きだけれども評定が悪いという実態も考慮いたしまして、学習の定着を図る工夫がなされているものですか、わかりやすい表記、また、興味・関心を持たせる工夫などに特に重きを置いて検討いたしました。

特に、各学年の単元配列が、観察・実験のしやすい時期や発達段階を考慮して配置されているかという点を検討させていただきました。先ほど委員もおっしゃっていましたが、物質を扱う第一分野よりも身近な生物などの第二分野から学ぶほうがスムーズに

学習できるのではないかという見解から、3社に決めました。A社とB社とF社です。いずれも第二分野から学ぶ単元配列になっております。

そのほかに、A社ですと、単元の終わりに「学習内容の整理」というページがあり、その章で学習した内容がわかりやすくまとめられているので、学習の定着を図る工夫がなされているということですとか、確かめと応用とか、学びを広げようというページがありまして、思考力を育てる工夫や発展的な学習内容もあってよいと思いました。

また、報告書でも、推測しようですとか、それから学びを生かして考えよう、考察しようなど問いかけも多く出てきて、これも思考力を育む工夫がされている。疑問から実験・考察といった学習の流れが丁寧に書いてあって、工夫されてよいという報告書の評価が多かったように感じました。

科学の本棚というトピックがありまして、その単元に関連した本を紹介しているのも、興味・関心を持たせる工夫としてよいと思いました。

B社に関しましては、章の終わりに学んだことを生かそうというページがあり、記述式で知識を整理したり、キーワードをポイントにまとめが書かれているので、学習定着を図る工夫がなされていてよいと思いました。

それから、「暮らしの中の理科」ですとか、「やってみよう」という実生活に即した内容がありまして、思考力を養うだけではなく、興味・関心を持たせる工夫がなされていることもよいと思いました。これは報告書でも評価されていたかと思います。

そのほかに、報告書での評価として多かったのは、写真の大きさが見やすくわかりやすいですとか、資料としての写真が豊富であり、見やすく配置されているなど、見やすくわかりやすい工夫がなされているという評価が多かったかと思います。

F社に関しましては、やはり単元ごとに学習のまとめがあり、単元全体の基本事項の確認や整理ができるということと、暗記学習ができるようにカラーシートがついていまして、シート式で何度でも確認できるので、学習の定着を図る工夫がなされていると思いました。

それから、「振り返り」という項目がありまして、小学校からの関連した学習内容も入っているなので、確かな理解が図れる工夫

がなされていると思いました。

それから、やはり別冊のマイノートに関して、知識・技能を習得させるための工夫、練習問題も豊富にありますので、自学自習することができる点などがよいと思いました。

以上です。

○委員

理科に関しましては、F社、B社、C社に絞り込んでまいりました。

選定のポイントとしましては、基本的には学習指導要領の改訂に戻るわけですけれども、大きく2点あるのかなと思っておりません。

1点目は、科学的な思考・表現力等の育成の観点から、観察や実験の結果を分析し、解釈する学習活動となっているかどうか。それから、科学的な概念を使用して考えたり説明したりするなどの学習活動の充実を図る内容になっているかどうかという点が1点目です。

それから2点目は、科学を学ぶことの意義や有用性の実感、それから、科学への関心を高める観点から、日常生活や社会との関連性を重視した改善がなされているかどうか。こういった観点から絞り込んでまいりました。

F社でございますけれども、言葉の定義ですとか観察・実験のまとめが丁寧に掲載されておりまして、基礎的・基本的な内容の定着に重点が置かれている点に着目しております。

それからもう1点は、話し合ってみようという考察の場面を示しておりまして、いわゆるアクティブ・ラーニングを取り入れる工夫がなされている点に着目しております。

それから、生徒の科学的思考の成長を踏まえて配列がしてあるという点についても着目しております。

それから、最後になりますけれども、教科書にコラムとして、「部活ラボ、働く人に聞く」を掲載しておりまして、生徒が興味・関心を持って学習されるように工夫されているという点に着目しております。

次に、B社につきましては、観察・実験の方法が簡潔に解説されておりまして、学習の全体像をつかみやすくなっている点については工夫がなされていると思いました。

それから、実験結果が掲載されておりまして、結果からわかることの見出しの中で考察が示されておりまして、それによって、ま

た実験後から何がわかるかということも理解しやすいような、そういった工夫がされている点に着目しております。

それから、単元の終わりのところの問題では、記述式の問題、それから読解力を伴う問題が示されておりまして、思考力・判断力を高める工夫がされていると思いました。

最後に、C社でございますけれども、話し合いの場面など、いわゆる協働的な学習、協働学習ですけれども、そういった学習を進めやすいような工夫がなされている点でございます。

それから、終わりのところに、やはり記述式の問題が数多く掲載されておりまして、思考力を育む工夫がされている点について着目をいたしております。

それから、科学を仕事に生かすところでは職業の紹介が掲載されており、科学との関連に配慮した記述がなされている点について評価したところでございます。

○委員

私は2社に絞ってまいりました。

ほとんど議論は出尽くしているとは思いますが、一つはB社です。

まず、選ぶ一番の基本はやはり、数学ほどではないにしても、既習事項が非常に大事になってくるということで、振り返りとか既習事項に対する説明がよくできているところをまず選んだという感じもございます。

B社ですが、単元の初めに、これまでに学習したことや既習事項の確認が、ほかの教科書もあるのですが、一番しっかりしていたということ。それから、やはり理科で実験のところですが、なぜ実験をするかという問い、それから、実験を行って、その結果、そして、それを解説する流れが他社より一歩ぬきんでているかなと感じたので、B社にしました。

もう一つはF社でございます。基礎事項・重要事項が別冊になっているマイノートで見やすいようなシステムになっているので、このF社も外せないかなと思いました。語句の定義や観察・実験のまとめなども丁寧でわかりやすいという印象を持ちました。

ということで、私はB社とF社を選ばせてもらいました。

○委員長

各委員の意見をまとめますと、B社、F社の2社を採択候補とすることよろしいでしょうか。

(各委員同意)

○委員長 それではB社、F社を採択候補として絞り込んでいきたいと思
いますので、各委員それぞれさらに検討していただければと思
います。

 次は音楽（一般）について協議します。

○委員 私は内容としては、際立った印象が少しあったかなというこ
とで、それをまず申し上げます。

 A社とB社の執筆者ですね。これで、なるほどなと思いま
したのは、執筆者が、A社の場合は教育者である立場の方が大半であ
ります。一方のB社は、作曲者、指揮者、奏者がかなり大半を占
めている。こうした執筆者の方の違いが出てきているのかなという
印象を受けました。

 私は、やはり音楽がどうしても自分の感性に合っていないと形
で嫌いになる子どもたちが時折見られますので、音楽を嫌いにな
らないということを基本に見させていただきました。

 そうしますと、やはりこれは執筆者の方々の違いなのかもしれ
ませんが、A社のほうが嫌いにならないというか、説明が押しつ
けではないと、非常に子どもたち自身に考えさせるという基本姿
勢で貫かれているような印象を受けました。歌詞とか作詞・作曲
者の説明が非常に丁寧であると。例えば「赤とんぼ」ですとかの
説明が丁寧に書かれているのがA社だという印象を受けました。

 それから、同じA社とB社で共通しているのが、春のソネット
の説明があるんですけども、これがA社のほうが簡潔であった
ということで、一方のB社のほうは作曲者の意向かもしれませんが、
イタリア語の原詞が書かれています。何か意味があるのかな
というのをちょっと考えてみたんですが、私自身にはわかりませ
んでした。そういったところの違いがありました。

 もう一方、もう一つ共通な「魔王」の曲の説明です。これもA
社のほうは詞の内容が理解しやすいように書かれておりましたが、
B社のほうの説明が、少しわかりづらいといいますか、どうしても
比較してしまいましたので、若干B社のほうが劣るかなという
印象を受けました。

 それからもう一つは、箏曲の違いですけども、箏曲は、A社
のほうは楽譜の説明が非常に見やすかったという印象です。B社
のほうの楽譜の例がちょっと小さいのではないか。これはやはり、
多少目の不自由な方にしてみると非常に見づらい、そういう印象

を受けました。

以上でありまして、私はA社を選ばせていただきました。

○委員

私は、両方ともよくできているという印象を持ちました。

私は余り際立った違いというのは感じられなかったんですけども、一つ言うと「モルダウ」、今「ブルタバ」って言うのでしょうか。それを1年で取り上げるか、2年で取り上げるかというところの評価があつて、1年で取り上げると、そのほかのオーケストラとのつながりでわかりにくいと指摘がありましたので、そういうところを入れて、私のほうはB社のほうを選びました。

でも、本当に両方とも遜色なくという印象です。

○委員

やはり、表現や鑑賞ですとか、それから、音楽の基礎的な能力を伸ばすというところでは、両社ともとてもよかったですと思いますし、言語活動についても、どちらも、「伝えてみよう」、「自分の考える曲のおもしろさを話そう」とか、「パートの役割を話し合ってみよう」など、それぞれ工夫されていると思いました。

調査報告書の中で、目黒区の児童生徒の実態に合った学習内容というところでは、3年生の4月に音楽鑑賞教室があるので、その授業展開を考えると、内容構成上、指導しやすいのはB社のほうではないかということで、B社のほうがよいのではないかなと思いました。

以上です。

○委員

私も、A社とB社と、非常に迷ったところではありますけれども、最終的に私はB社ということで絞り込みをいたしました。

基本的な考え方としましては、やはり学習指導要領の改訂のポイントに置いているわけですが、一つは、音楽文化についての理解を深め、音楽を愛する心情、音楽に対する感性、音楽活動の基礎的な能力、こういったものについてどう取り扱っているか。そしてまた、音楽文化についての理解が総合的に作用し合つて、豊かな情操を養うという点についてどうかという点でございます。

それからもう1点は、思考力・判断力・表現力等を育むために、学習活動の基盤となる言語活動の充実が図られているかどうか。こういった点で、言葉で説明する、根拠を持って批評するなどの、そういった活動について行うということが着眼点でございます。

B社に絞り込んだ理由としては3点ありまして、一つは、1学年の教科書では音符と休符の書き順例が示されているということ

と同時に、巻末に音階についてわかりやすく記述されている点、それから、音楽活動の基礎的な能力を育む内容となっている点に着目をいたしております。

それから2点目は、耳でたどる音楽史や、写真ですとか、代表曲なども視覚的に訴えている。そういった面で、理解しやすい配置となっているのかなと思いました。

最後に3点目は言語活動について、具体的に示されたものが数多く掲載されている。こういったものから、使いやすい教科書ではないかと考えました。

○委員 最後に私なんですけど、わずかですけど、使いやすいという評価の多かったB社を選んでまいりました。

○委員長 各委員の意見をまとめますと、B社を採択候補とし、引き続き検討することよろしいでしょうか。

(各委員同意)

○委員長 それでは各委員それぞれさらに検討していただければと思います。

次に音楽（器楽）について協議します。

○委員 器楽は一般と同じ視点で私も選びましたので、私が選んだのはA社です。

ただ、私の小学校時代、中学校時代の印象から言いますと、どちらも十分考えられるということであり、私はA社のほうが、私に合っているなという印象で選ばせていただきました。

○委員 私は、B社を選びました。A社もB社もほとんど拮抗していると思うのですが、私が感心したのは、やはりリコーダーの指導の仕方、あるいは見やすさや表記の仕方などが、やはりB社のほうがわかりやすく、うまくできていると思いました。いずれにしても、どちらも本当に拮抗していましたけれども、B社を選びました。

○委員 私もBがよいと思いました。

○委員 私もB社ということで絞り込ませていただきました。ポイントは三つあるのかなと思います。

一つは、演奏形態別の曲数として、いろいろな楽器による合奏が数多く掲載されておりまして、音楽文化に親しめる内容になっている点に着目をしました。

それから2点目は、諸外国の音楽の曲数と資料数が充実しております。これも音楽文化に親しめる内容になっている点について着目をいたしております。

3点目は、アンサンブルのページにはパートの役割や曲の構成を考えさせるページがありまして、非常にこういう点は工夫がなされているなということで、B社ということでございます。

以上です。

○委員 最後に私ですが、やはり非常に迷いました。

リコーダーについてB社もいいんですが、A社を見ると、一つの指の使い方から始め、私にもわかりやすいと感じは持ちましたが、やはり器楽ということで、一般的奏法がどちらがわかりやすい説明をしているかということ、B社に軍配が上がるかなと私自身は感じました。

○委員長 各委員の意見をまとめますと、B社を採択候補とし、引き続き検討することよろしいでしょうか。

(各委員同意)

○委員長 それでは各委員それぞれさらに検討していただければと思います。

次に美術について協議します。

○委員 私は、B社とC社です。

B社は、美術を学校生活の一部にしよう、好きになろうといった視点が貫かれているかどうかというところで見させていただきました。B社の、美術って何だろうというところで、生徒の視点が導き出しやすいような書き方にされていると。調査報告書でも、目標が掲げられていて、狙いが明確であるといった視点が重要であると認識をいたしました。

それから、詩人の言葉とか作家の言葉が書かれています。美術の中も、当然のことながら、そういった芸術と一体のものであるというところで、思いを膨らませるという工夫がやはりされているというのが印象を受けました。

それから、各單元ごとに狙いがわかりやすく書かれていると。絵画や彫刻、デザイン・工芸、資料などに構成が分かれているということで、これは教える側も学ぶ側も見やすいという印象を受けました。

あと、単元のタイトルがかなり印象に残っておりました。生徒の発想を促すという言葉で書かれているタイトルがあるということで、これもB社のよい点であるということに挙げました。

それから、振り返りといいますか、小学校の図画工作から美術へのつながりということで、これもやはり嫌いにならないという基本の姿勢からいいますと重要なことであり、わかりやすく書かれていたことで印象を受けました。

C社は、これも調査報告書にあります、生徒作品を多く掲載している。これも非常によろしいかと思いました。

それから、先ほどの分類があると同時に、構成が非常にわかりやすく表現されているということと、先ほどの単元のタイトルの件なんです、生徒の発想を促しやすいという言葉の工夫、これもよい印象を受けました。

ということで、B社とC社、2社を選ばせていただきました。以上です。

○委員 私は本当に選び切れなくて、とりあえず今日のところは、3社どれもよいなと思います。

C社は大判なので、その面で優位かなというところはあるんですけども、それと、生徒作品が多いというところは、こういう名作と生徒作品が同じページに載っているというの、なかなかよいなと思いました。

とてもよくできているので、もう少し時間をかけて選びたいと思います。

○委員 私も同じで、どれもよいと思っているので、まだ決め切れておりません。

やはりC社に関しては、鑑賞という点でも、作家から生徒の作品に至るまで、多くの参考作品が掲載されているところがとてもよいと思いました。

それから、報告書では、A社とB社は1年、2・3年が2冊になっていて使いやすいという評価もあったので、A社とB社のほうが使いやすいのかなとも思いました。

ですので、まだ決め切れておりません。

以上です。

○委員 私は、最終的にC社とA社の2社に絞り込みをいたしました。

その理由としまして、基本的には学習指導要領のポイントに帰るわけですけれども、1点目は、美術文化について理解を深める、

そういった点について工夫がなされているかどうかということで、全体的に評価をしております。

それから、表現の領域では、発想や構想したことなどをもとに、表現活動を通して技能に関することについて指導できるような、そういう工夫がなされているかどうかという点でございます。

まず、C社について申し上げますと、3点あります。

1点目は、日本や諸外国のすばらしい文化遺産等を数多く取り扱っている点については着目したところでございます。

2点目は、渋谷や六本木等の身近な題材の作品や建物の写真等が掲載されており、現代の美術文化を身近に感じ取れる内容になっているという点で、非常にバランスがよいと思いました。

3点目は、制作過程がきちんと掲載されておりまして、生徒にとってはわかりやすい、使いやすい内容となっているということで、C社でございます。

A社でございますけれども、A社についてもほぼ同様の内容ではありますけれども、一つは、基礎的な技能や知識、そういったものを習得できるような囲み記事、それから巻末のまとめ、こういう点について工夫がなされていると思いました。

それから、題材ごとに学習の狙いと学習の振り返りを示しておりまして、学習展開の意味をわかりやすく、明確にしている点について着目しております。

目次におきましては、絵画・彫刻の分野、それからデザイン・工芸の分野、ガイダンスや資料と、分野別に色の帯で示している。

こういった点についても非常に工夫がなされているかなということで、C社とA社に絞らせていただきました。

以上です。

○委員

私も非常に迷って、学校調査報告書も一個一個の項目で読ませてもらいました。

要するに、基礎的・基本的な知識・技能を確実に習得させるための工夫がなされているか。思考力・判断力・表現力等を育むための工夫がされているか。各単元の内容は、生徒が学習内容を理解する上で適切な分量となっているか。学習したことの定着が図られるよう、単元配列や内容構成の工夫がなされているか。使いやすさに対する配慮がなされているか。記号・式・図形、挿絵、写真などがわかりやすいか等、一個一個の項目があって、それが評価されているわけですが、3社ともほぼ同じ評価です。

評価が同じですので、先ほど委員もおっしゃったように、私もC社を選ばせてもらいました。一つは、生徒の作品と厳選された有名・著名な作品が同列になり、生徒の意欲も増せるよう工夫されていること、それから、単元の狙いがわかりやすく掲載されているという、わずかな差でC社を選んでまいりました。

○委員長 各委員の意見をまとめますと、全社を引き続き検討することによってよろしいでしょうか。

(各委員同意)

○委員長 それでは各委員それぞれさらに検討していただければと思います。8月4日に1社への絞り込みを行いますので、よろしくお願いいたします。

次回の教育委員会定例会では、英語、技術、家庭、保健体育の協議を行います。

ここで、議事の進行上、暫時休憩としたいと思います。

(午前10時18分、休憩入る)

(午前10時21分、休憩終わる)

○委員長 休憩前に引き続き、会議を開きます。
次に日程第2を議題とします。

(日程第2 平成27年度目黒区一般会計補正予算(第2号)について(報告事項))

○説明員 (資料により説明)

○委員長 この件についてご質問等ございますか。

○委員 直接は関係ないのですが、校地借地料について小学校2件、中学校1件支払いをしているということですが、目黒区は学校、校庭というか、借地が多いのでしょうか。

○説明員 記載しています中目黒小学校、田道小学校につきましては正覚寺、祐天寺にお借りしています。また、第一中学校と第十一中学校を、財務省関東財務局からお借りしております。以上4校につきましては借地です。

- 委員 ありがとうございます。
- もう一つ、ランドセルひろばでのランドセルの設置台ですが、台をつくるのに550万もかかるのですか。個数がたくさんあるからなのでしょうか。
- 説明員 ランドセルひろばにつきましては、現在、小学校全22校で実施しております。ランドセルの置き台として、1台8万5,000円、それを73台分ということで、費用としてかかるということです。
- これまではブルーシートを下に敷いたり、昇降口の階段に置いたり等していたわけですが、より安全・安心な事業運営ということでは、以前からランドセルを置く台の要望は強く受けていたところですので。今回、寄附ということでいただけるので対応したという経緯でございます。
- 委員長 その他ご質問等ございますか。
- 特にないようですので、この報告を受けました。
- 以上で、本日の定例会を閉会といたします。ありがとうございました。

(午前10時52分閉会)